

断面計画

1. 敷地高低差を考慮したFLの設定

敷地・敷地周辺の高さ

計画にあたり、敷地及び敷地周辺の高さの計画条件を設定し、フロアレベル(FL)を設定します。

中土橋通り高さ	標高7.5m(敷地南東付近)
既存県民会館高さ	標高10.5～11.3m
土塁高さ(南側)	標高12.5～13.5m
土塁高さ(西側)	標高13.5～15.5m
和洋高校敷地高さ	標高8.5m
佐竹小路高さ	標高7.5～8.5m

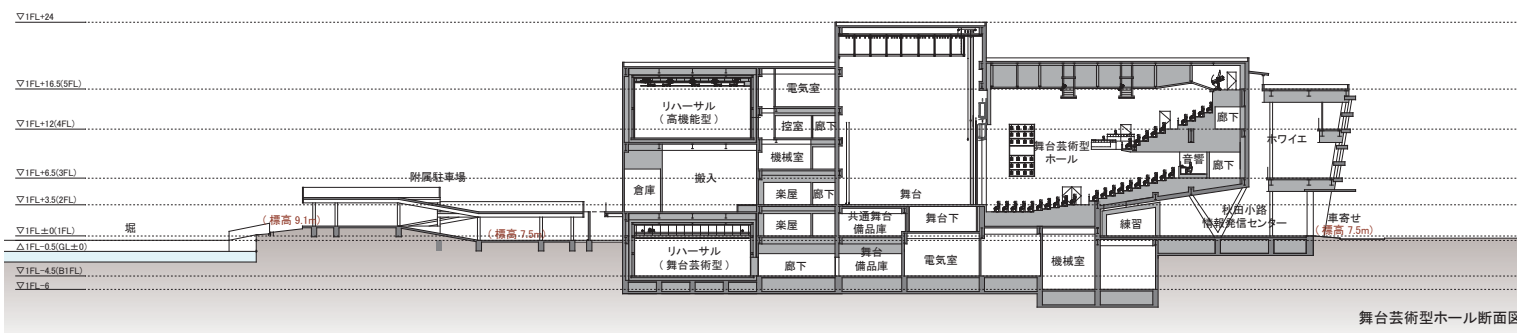
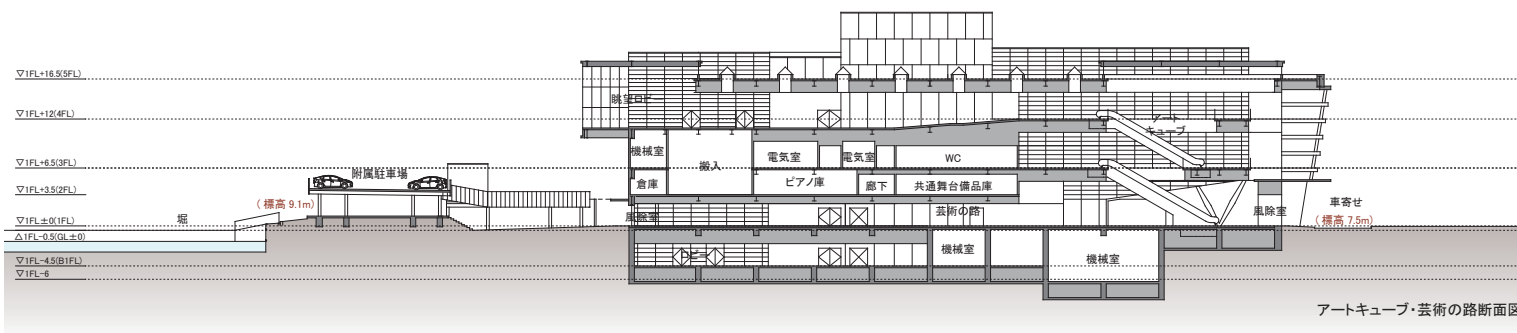
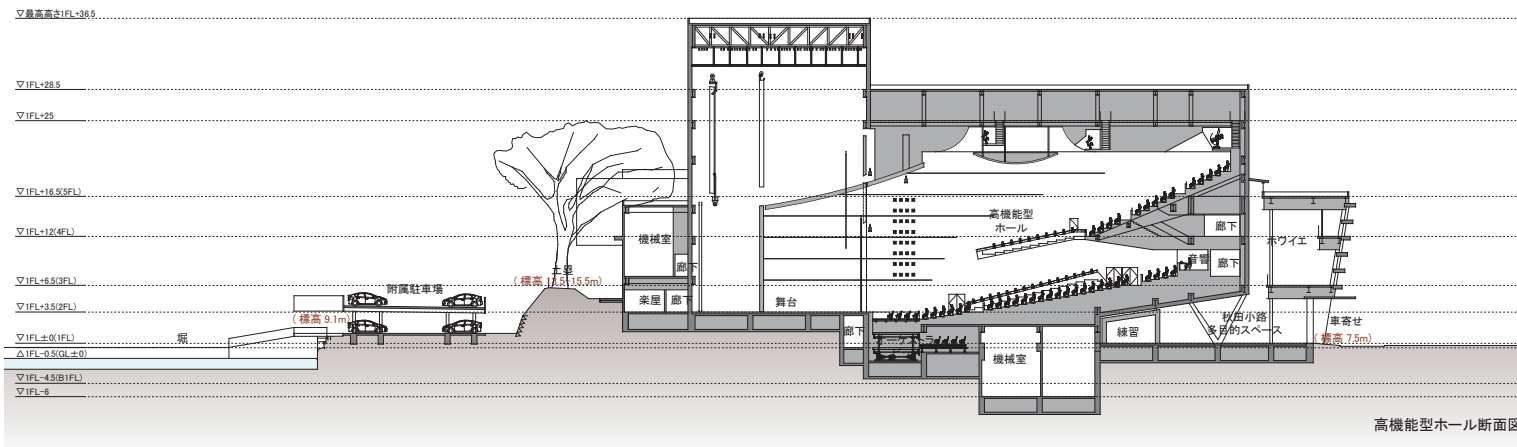
本施設では1FLを中土橋通りレベル+0.5m(標高8.0m)に設定するとともに、既存県民会館高さ(標高10.5～11.3m)及び、土塁高さを有効に活用したレベル設定とする。



2. ホールの使い勝手を考慮した階高の設定

舞台レベル

各ホールの搬入は、トラックでの利便性を考慮し、既存県民会館レベルである1FL+2.7mを搬入レベルとします。各ホールの舞台レベルは搬入から+0.8m高い、1FL+3.5mとします。



3. 景観を取り込むレベル設定

お堀の眺望を楽しめる高さ設定として、3階メインホワイエレベルを土塁の高さより高い1FL+6.5mに設定します。
外堀や内堀、千秋公園を臨みやすいレベル設定とします。



立面計画

1. 歴史的な景観要素を大切に活かす

樹齢約400年の樹木と対応する
陰影のある外観により、保存樹と対応する落ち
着きのある佇まいを形成します。
水平の低層部と高さを抑えるボリューム配置
水平ラインを基調とした低層部で建物周囲を取り
囲みます。客席やフライタワーを建物の中央
に寄せ、低層部から飛び出るボリュームを小さ
く見せ、周囲への圧迫感を軽減します。

▽最高高さ(1FL+36.5)

▽6FL(1FL+22.5)

▽5FL(1FL+16.5)

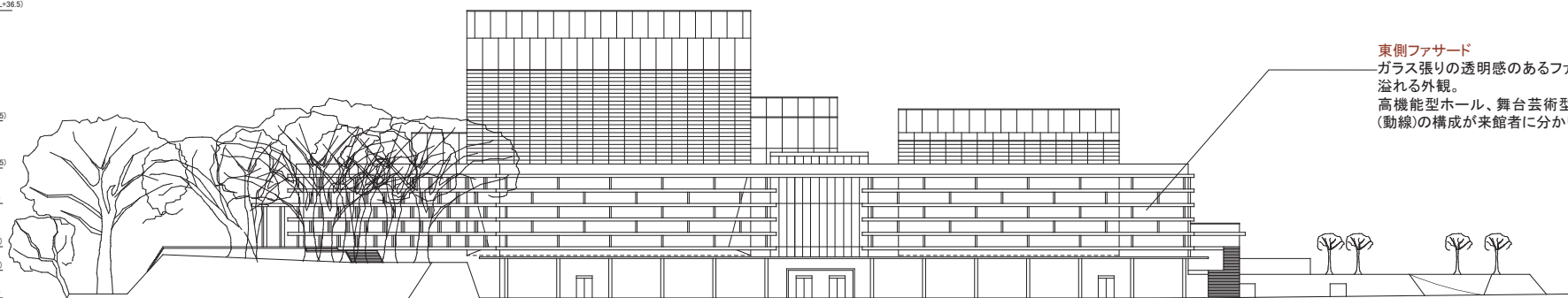
▽4FL(1FL+12)

▽3FL(1FL+6.5)

▽2FL(1FL+3.5)

▽1FL(1FL±0)

△GL(1FL-0.5)



東側立面図

東側ファサード

ガラス張りの透明感のあるファサードにより、賑わいの溢れる外観。
高機能型ホール、舞台芸術型ホール、アートキューブ(動線)の構成が来館者に分かりやすい計画。

▽最高高さ(1FL+36.5)

▽6FL(1FL+22.5)

▽5FL(1FL+16.5)

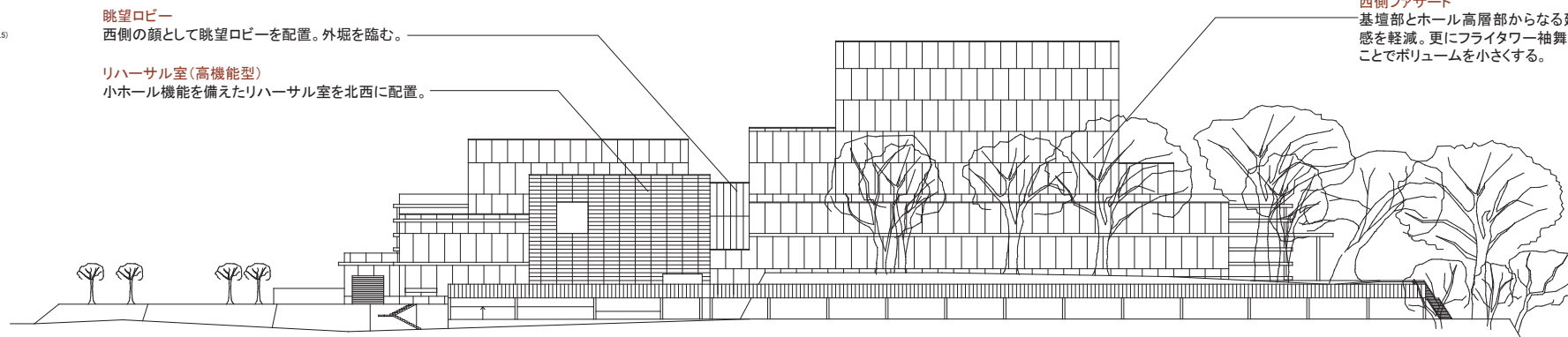
▽4FL(1FL+12)

▽3FL(1FL+6.5)

▽2FL(1FL+3.5)

▽1FL(1FL±0)

△GL(1FL-0.5)



西側立面図

眺望ロビー

西側の顔として眺望ロビーを配置。外堀を臨む。

リハーサル室(高機能型)

小ホール機能を備えたリハーサル室を北西に配置。

西側ファサード

基壇部とホール高層部からなる建物構成により、圧迫感を軽減。更にフライタワー袖舞台の高さを低く抑えることでボリュームを小さくする。

0m 5m 10m 25m

立面計画

2. 施設の賑わいと景観の呼応

堀や土塁、保存樹と呼応し新たに生まれる景観
土塁の高さに配慮したホワイエや眺望テラスに
より、施設の利用風景が樹木の向こうに展開する
魅力ある景観が広がる建物構成とします。

舞台芸術型ホールホワイエ
千秋公園や内堀を臨むガラス面を計画。

▽最高高さ(1FL+36.5)

▽6FL(1FL+22.5)

▽5FL(1FL+16.5)

▽4FL(1FL+12)

▽3FL(1FL+6.5)

▽2FL(1FL+3.5)

▽1FL(1FL±0)

△GL(1FL-0.5)

高機能型ホールフライタワー
敷地中央にフライタワーを配置し、周囲からのボリューム感を軽減。

北側ボリューム
北側住宅地に配慮し、開口部は最小限に抑制。

北側立面図

眺望テラス
ビュッフェカフェと内外で連続する眺望テラス。敷地南側
及び西側の外堀を臨む。

▽最高高さ(1FL+36.5)

▽6FL(1FL+22.5)

▽5FL(1FL+16.5)

▽4FL(1FL+12)

▽3FL(1FL+6.5)

▽2FL(1FL+3.5)

▽1FL(1FL±0)

△GL(1FL-0.5)

高機能型ホールホワイエ・ビュッフェカフェ
土塁の高さにホワイエ・ビュッフェカフェを配置。外堀の
眺望を取り入れるとともに、広小路側からは保存樹越し
に賑わいが垣間見える。

附属駐車場
駐車場を低層(一層2段)に抑え、保存樹や土塁のある
景観をつくります。

南側立面図

0m 5m 10m 25m